

第 26 回 学会報告記 (ESC Congress 2017)

European Society of Cardiology (ESC) Congress が、2017 年 8 月 26 日から 8 月 30 日の 5 日間の日程で、スペイン、バルセロナで開催されました。ESC は世界各国の 95,000 人の会員で構成されるヨーロッパ諸国を中心とした、米国の American Heart Association (AHA), American College of Cardiology (ACC) に並ぶ世界最大規模の循環器学会です。今回は、最新の臨床研究結果を報告する Late-Breaking Science が 96 題も報告され、Abstract は 10,804 演題の応募から採択された 4,514 演題が 700 以上のセッションで発表されました。



1 学会会場

今年度の ESC はスペイン、バルセロナにある Fira Barcelona で開催されました。バルセロナは、地中海沿岸に位置するスペイン第 2 の都市です。日本との時差は 7 時間、大阪伊丹空港から成田空港まで 1 時間半、成田空港からベルギーの首都ブリュッセルを経由し、スペイン、バルセロナまで 14 時間かけての長旅でした。学会会場は市街地からは少し離れた場所でしたが、バルセロナ市街は地下鉄が張り巡らされており、会場までは 20 分程度でアクセスは良好でした。開催 1 週間前にテロが発生したばかりで緊迫した状況ではありましたが、日本人参加者を含めヨーロッパ、北米、南米、アジアなど世界中から大勢の方が参加しており、会場内はテロの影響を感じさせない活気が満ちていました。



＜バルセロナの街並み＞



＜会場内受付前＞

2 発表その他

8月27日（日）

奥野翔太 先生

「Three-year clinical outcomes of hemodialysis patients with coronary artery disease after second-generation drug-eluting stent implantation」

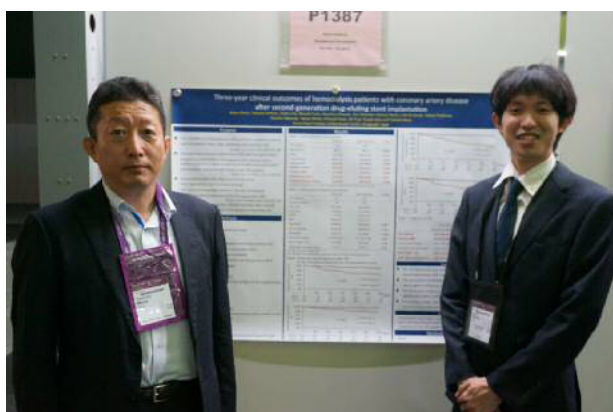
8月28日（月）

神田貴史 先生

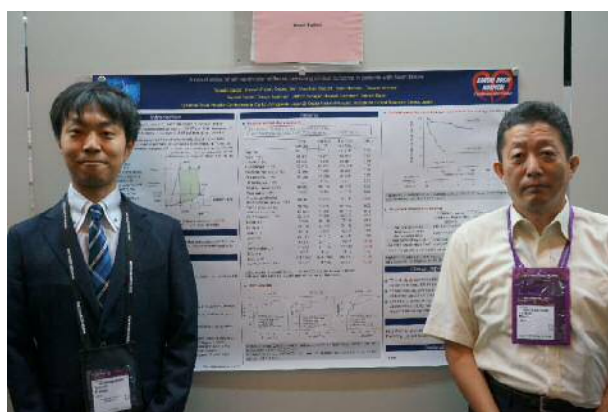
「A novel index of left ventricular stiffness predicting clinical outcome in patients with heart failure 」

関西労災病院からはポスターセッションに上記 2 演題を発表しました。虚血性心疾患領域から 1 演題、心臓超音波領域から 1 演題の発表でした。いずれも他の参加者から質問をいただき、今後の課題を見つけることができました。

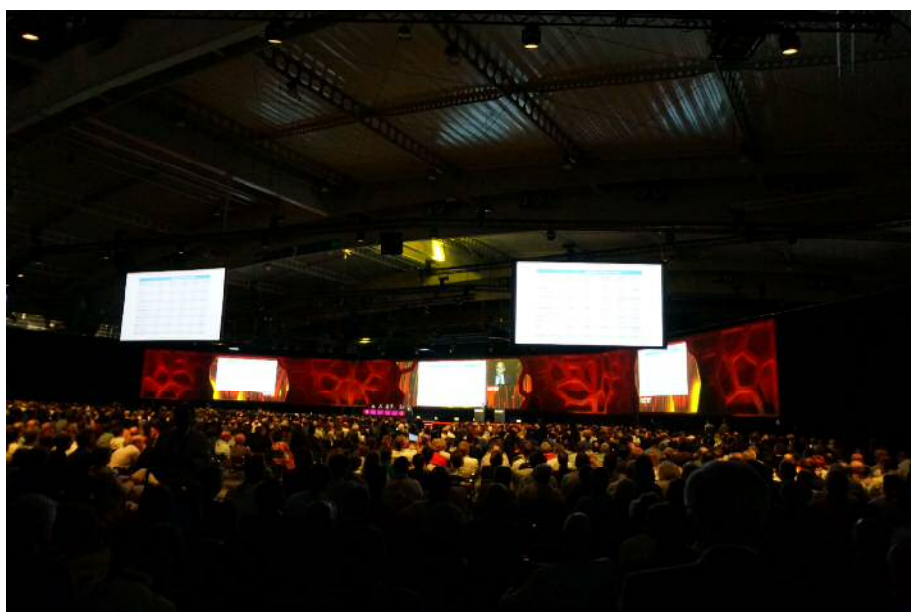
その他にも、経皮的冠動脈形成術（Percutaneous coronary intervention, PCI）40周年を記念して PCI 関連のプログラムを中心に構成された Spotlight セッションやガイドラインの改定に伴う ESC ガイドラインセッションなど多くの見所がありました。また、Late Braking Science セッションでは、安定したアテローム動脈硬化性疾患患者に対してアスピリンに少量の直接経口抗凝固薬を追加することでアスピリン単剤よりも心血管イベントを抑止したとする COMPASS 試験や、高感度 CRP 値の高い心筋梗塞患者に対して分子標的薬であるカナキヌマブが心血管イベント再発を抑止したとする CANTOS 試験など、今後従来の標準治療に追加することでより良い成果をもたらし得る貴重な研究結果が報告されました。



<ポスター前 左：真野部長 右：奥野>



<ポスター前 左：神田先生 右：真野部長>



<Late Breaking Science セッション>

3 大阪大学循環器部会 in ESC 2017

学会 3 日目の 8 月 28 日に大阪大学循環器部会の懇親会がありました。大阪大学循環器内科学 坂田泰史教授および堀正二元教授のご挨拶で始まり、大阪大学の各関連病院の部長先生を含め大阪大学関連の ESC 参加者 20 名でテーブルを囲み食事をしながら情報交換を行いました。



<集合写真（食事会場にて）>

4 まとめ

私にとって念願の ESC への初参加でした。現在循環器領域の中で参加者の最も多い最大規模の学会だけあって、会場内は直前に起きたテロに屈することなく、熱気に満ち溢れておりました。世界最先端の臨床研究結果を on time で聴くことができ、教科書や論文の中でしか知らない著名な先生を拝見することができるのは、このような海外学会に参加したからこそ味わえる非常に嬉しい経験であり、来年以降もこの場に参加したいという意欲が湧きました。

海外学会に参加するたびに、自分の英語力に至らなさを痛感しますが、私よりも少しだけ上の年代の先生が流暢な英語で発表している姿を見て、非常に刺激になりました。まずは相手の話している内容を聞き取る練習を積み重ねながらステップアップしていきたいと思いました。そしてこの学会で得た経験を日常の臨床業務にフィードバックできるように研鑽を積んでいきたいと思います。



以上、ESC 2017 学会報告記でした。